

令和4年度始良・伊佐地区研究協力校「道德教育」
湧水町立轟小学校道德教育研修会

1 研究主題

(1) 地区研究主題

「考え、議論する道德」に向けた授業の在り方

(2) 会場校研究テーマ

多面的・多角的に考えて議論し、学びを深め合う子どもの育成
～言葉の力を磨き、深く学ぶための取組を通して～

2 研究発表

湧水町立轟小学校では、令和3年度から2年間にわたり、地区指定研究協力校として、研究・実践に取り組んできました。研究発表では、学年に応じた聴く力の育成やタブレットの活用等による「対話的活動の充実に向けた取組」、価値分析・授業構想図を使った指導案作成や立場を意識した意見交流等による「授業での思考を深める取組」、道德コーナーやぽかぽかの木の設置による「環境づくりの取組」について紹介されました。また、タブレットの活用等の工夫により、児童が多面的・多角的に考え、より深く考える姿が見られるようになった児童の変容も紹介されました。

3 研究授業

5年生と6年生の2学年で研究授業を行いました。

5年生では、中畠瑞希教諭が「折れたタワー」の教材を使って授業を行いました。ロイロノートを活用し、自分の考えを色カードで提出させ、自分の立場をはっきりもたせることで、活発な議論が行われました。また、グループでの話し合いの際、オープンクエスチョンの話型を使うことで、相手の話をより深く広げて聴くことができ、考えを見直したり、明確・強固にしたりできました。

6年生では、遠矢航平教諭が「カスミと携帯電話」の教材を使って授業を行いました。Yチャートを使うことで、「自分」「相手」「社会」の視点から考えを書けるようにしました。自分の考えを全員で共有できる場を設定することで、友達の多様な考えに触れることができ、自分の考えを書くことが苦手な児童でも複数の考えをもつことができました。



【5年生の授業の様子】



【6年生の授業の様子】

4 分科会

分科会では、5年生と6年生に分かれ、授業研究・研究協議を行いました。授業研究では、会場校研究テーマに沿って、「多面的・多角的な議論を活性化させるための対話的な活動」について、また、「ねらいとする道徳的価値に対する児童の思考を深めるための工夫」について意見交換を行いました。研究協議では、地区研究主題である「考え、議論する道徳」の充実に向け、各学校の取組や日頃の授業の工夫等について、グループで意見交換を行いました。



【グループ協議の様子】

授業研究・研究協議の中で出された意見の主な内容は、以下のとおりです。

【5年生分科会】

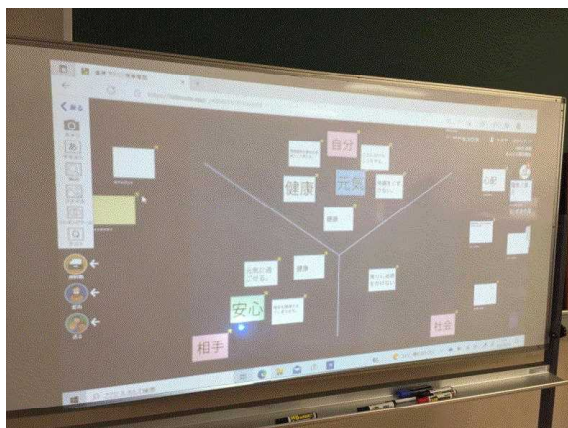
- ロイロノートを活用し、考えを表明することで、学級全体の考えを短い時間で集約し、常に見える形で残すことができたため、話し合いの際に、自分の立場をはっきりさせて、考えを述べることができた。
- オープンクエスチョンの話型を提示することで、積極的に質問をしようとする態度が見られたが、話の中心とはずれた質問もみられた。

【6年生分科会】

- Yチャートを活用することで、道徳的価値を「自分」「相手」「社会」の視点から考えることができ、多面的・多角的な考えをもつことができた。
- 考えを書くことが苦手な児童は、共有ノートを参考にしすぎるため、自分の力で書けるような工夫をしていく必要がある。

【轟小の特徴的な取組】

立場を意識した意見交流の場の設定



児童自身がいろいろな立場で考えることができるように、発表された意見がどの立場で考えられたかを話し合う活動において、「自分」「相手」「社会」のカードを使い、視覚的にどの立場の考えかが分かるようにした。また、カードがなくてもYチャートなどの思考ツールで、それぞれの立場を意識した意見を出すこともできた。